

令和4年度(2022年度)
審判員の目標

1 『審判員の心得 10箇条』
→ コーチ・レフェリーシンポジウム2018 in 熊本
日本ハンドボール協会指導委員会 <https://youtu.be/HGXgn1k5Tzw>

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』
→ 昨年度より継続
→ 強化・育成共通の理解

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

1

令和4年度(2022年度)
審判員の目標

コンタクトプレーを
正しく見極める
～モダンハンドボールの考え方から～

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2

モダンハンドボール

近年のハンドボール競技の特徴
⇒ 激しいボディークンタクト
スピーディーなゲーム展開

リオ・オリンピック
以降、さらに強調

「ハードプレーとラフプレーの見極め」
＜世界基準…日本のプレーヤーが
国際大会で活躍するために＞
われわれレフェリーが、理解し、整理し、
解決していかなければならない課題

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

3

コンタクトプレーを正しく
見極めるために

「ハードプレーとラフプレーの見極め」

競技規則第8条「相手に対する動作」
⇒ 攻撃側、防御側の双方にあてはまる

＜身体接触の際＞

- ◆ 両者の位置関係
- ◆ 違反を受けたプレーヤーへの影響

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

4

競技規則 8 : 1 (a) ~ (c)

次の行為は許される

- 他のプレーヤーの手からボールを取るために、**開いた片手**を使うこと
- 相手の身体に接触し、そのまま相手の動きに合わせてついていくために、**曲げた腕**を使うこと
- 位置取りをめぐり、相手をブロックするために**胴体**を使うこと

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

5

ハードプレーとラフプレーの見極め
(防御プレーヤーの位置と防御行為)

防御行為の **ハードプレー** とは・・・

- ◆ 攻撃側プレーヤーの正面
- ◆ 競技規則8 : 1の状況(例えば、曲げた腕)
- ◆ 相手の安全面を守る

↓

接触の度合いが強かったとしても
ハードプレーとして認める

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

6

良いディフェンスの例 (正面・曲げた腕・ボールに対してプレーする)

DFプレーヤーは、**曲げた腕**を使いながら、相手正面に入り、ついていっている。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



7

オフENSIVファールの例 (先に位置を取る・正面)

DFはボールを持ったOFプレーヤーに対して、**先に正面**に位置を取っている。
レフェリーの判定は正しい。
オフENSIVファール。
相手チームのフリースロー。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



8

正しいディフェンスの例

DFは相手に対して、正面からのコンタクトを試みている。決して罰則を適用してはならない。

ピボットも明らかな得点チャンスを得ているわけでもないので、OFチームの**フリースロー**。

それ以外の判定はない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



9

ハードプレーとラフプレーの見極め (レフェリングの際の**ポイント**)

【 **大切な判断基準 (事実判定の根拠)** 】

- ① **ボディコントロール**は？
- ② プレーヤーへの**影響**は？
- ③ **ボールに対するプレー**？



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



10

① **ボディコントロール**

⇒ **シュートを打ち切ったかどうか** **影響**は？

もしも、ボディコントロールを**失わず**にプレーできているならば…

- ◆ **ゲームの流れを重視**
- ◆ **安易に競技を中断しない**

7m スローの判定や罰則の適用 などにより

モダンハンドボール (ハンドボールの**面白さ**) を表現する



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



11

② **プレーヤーへの影響**

どの罰則を適用するかについての判断基準 (8:3)

- a) 違反行為をしたプレーヤーの **位置**
 ・ ・ 相手に対して、正面？側面？後方？
- b) 違反行為が対象とした **身体部位**
 ・ ・ 胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- c) 違反行為の **激しさの程度**
 ・ ・ 接触の強度は？相手の動きの速さは？
- d) 違反行為の **影響**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



12

DFのコンタクトによる シューターへの影響を見極める

シューターは、最終的にDFのコンタクトなしにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。

違反を受けたプレーヤーへの影響もないため、罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



13

視点

①DFの位置 ②OFの影響 ③シュートへの影響

DFは積極的に前へ動きながらコンタクトを試みている。

決してオフenseイブファールにはしてはいけない。

違反を受けたプレーヤーへの影響もないため、罰則は不要。

ゴールイン。
シュートを外したとしても、そのまま継続。



14

ピボットプレーの場合

ピボットがボールをキャッチした時、DFはピボットへのコンタクトを止めた。

そのため、ピボットは、ボディコントロールを失わずにシュートを打ち切った。

ゴールイン。 罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



15

③ ボールに対するプレー

防御プレーヤーの位置と防御行為

◆ ボールを対象としていない

◆ 不利な位置から接触をした

⇒ **ラフプレー** として判定
(競技規則 8 : 2、8 : 3)

横から

後ろから



16

DFのコンタクト (正しい位置ではない) シューターへの影響

ボディコントロールを失わずに、シュートを打ち切っている。

ゴールイン。 罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、**カテゴリーによっては影響がある**

17

DFのコンタクト (正しい位置ではない) シューターへの影響

シューターへのコンタクトの影響はなく、ボディコントロールを失わずにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。 罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、**カテゴリーによっては影響がある**

18

即座に2分間退場とすべき違反行為 (8:4)

- 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反
- 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒すこと
- 頭や喉、首に対する違反
- 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩くこと
- 相手が身体のコントロールを失う行為をしようとする事
(例：ジャンプ中の相手の足/脚をつかむ。8:5aを参照)
- 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかること



開始直後でも、即座に2分間退場もありうる！

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

19

即座に2分間退場とすべき違反行為

試合開始直後であっても、後方からのブツシングには、**即座に2分間退場**を判定しなければならない(警告では不十分)。

シューターは明らかな得点チャンスを妨害されたため、**7mスロー**を判定する必要がある。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

20

即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続けているため、**即座に2分間退場**とする。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

21

即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続け、さらに引き倒したため、**レフェリーは即座に2分間退場**とすべきである。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

22

コンタクトプレーを正しく見極めるために



「ハードプレーとラフプレーの見極め」

ハンドボール ⇒ **戦いの競技**
コンタクトの発生は**必然的**

<世界と戦うために>

ハードなコンタクトプレーが不可欠

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

23

これからのレフェリーの役割



◆世界の流れ

⇒ **スピーディーなゲーム展開**

◆競技規則 8:3 ⇒ **判断基準**

・・・ **影響を見極めて判定**

◆プレーを **正確に観察できる位置取り**

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

24

これからのレフェリーの役割
 ~試合開始15分までに基準（許容範囲）を示す~

前半のうちに

インフォメーション
ボディーランゲージ
段階的罰則

基準（許容範囲）
 を伝えていく

⇒ 後半に罰則を適用する必要がないようにする
 （もちろん**罰則を適用する準備**は必要）

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

25

これからのレフェリーの役割
 ~一試合を通して~

60分の中で

起きた現象
プレーの質

良いプレーを**保証**し
 悪いプレーを**排除**する

違反を受けたプレーヤーへの影響を見極め
罰則を適用するかどうかの判断をする

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

26

レフェリーの使命

チーム・プレーヤーは日々、トレーニングをしている。
 レフェリーの使命は、

安心・安全なゲーム運営
トレーニングの成果を存分に発揮させる

ことである。この使命を果たすために、身体的、精神的、競技規則の理解、映像分析、etc.

大会やゲームに臨むため、そして、大会期間中、ゲーム直前…日々「準備」をしなければならない。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

27

ハンドボールの発展のために
皆でトレーニングを積む

Team JAPANとして東京オリンピックの

ハードプレーとラフプレーを整理し
 コンタクトプレーを正しく見極める

「パワーハンドボール」

追求と発展を共に求めていく

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

28